

序文 地図のない旅 4

第1編 現代に生きる自己の課題

第1章 人間とは何か 6 ▶p.6
第2章 青年期の課題と自己形成
1 青年期の意義 9
2 自己の理解に向けて 12
3 豊かな自己実現のために 16

第2編 人間としての自覚と生き方

第1章 人生における哲学
1 神話から哲学へ 22 ▶p.8
2 自然哲学の誕生とソフィスト 24
3 真の知への道 — ソクラテス 26
4 理想主義的なあり方 — プラトン 30 ▶p.10
5 現実主義的なあり方 — アリストテレス 33
6 幸福をめぐる問い — ヘレニズムの思想 35
第2章 人生における宗教
第1節 キリスト教—愛の宗教
1 ユダヤ教 38
2 イエスの思想 41 ▶p.12
3 世界宗教への展開 45
第2節 イスラーム—啓示と戒律の宗教 48
第3節 仏教—智慧と慈悲の宗教
1 バラモン教 51
2 仏陀の思想 53
3 仏教のその後の展開 57 ▶p.14
第3章 人生の知恵
1 孔子と儒家の思想 61 ▶p.17
2 儒教の展開 64
3 道家の思想 68
第4章 人生における芸術
東洋と西洋の思考 1 美をめぐる思考 — 美と「倫理」とのかかわり 74 ▶p.18
東洋と西洋の思考 2 超越的存在をめぐる思考 — 東西の「神」 76

第3編 現代社会と倫理

第1章 現代の倫理的課題 78
第2章 現代に生きる人間の倫理
第1節 人間の尊厳
1 自己肯定の精神 82 ▶p.20
2 宗教観の転換 85
3 人間の偉大と限界 87
第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり
1 自然への目と科学的なものの見方 90
2 事実と経験の尊重 91
3 理性の光 93 ▶p.22
東洋と西洋の思考 3 自然をめぐる思考 — 生命的自然と物質的自然 97
第3節 民主社会における人間のあり方
1 民主社会の原理 98
2 人権思想の展開 99
第4節 自己実現と幸福
1 人格の尊重と自由 103 ▶p.26
2 自己実現と自由 107

学習内容をつかみやすい5編構成です。

思想の学習については、源流思想(第2編) ↓ 西洋近・現代思想(第3編) ↓ 日本思想(第4編)と展開します。

西洋思想を先に学習することで、第4編の日本思想との関連や近代日本への影響を理解しやすくなります。

東西の思考をとらえるテーマページを、5箇所設けています。

3 幸福と功利 110
4 創造的知性と幸福 112
第5節 個人と社会とのかかわり
1 人間性の回復を求めて — 社会主義 114
2 人間存在の地平 — 実存主義 117
3 他者の尊重 125
4 社会参加と他者への奉仕 129
第6節 現代における理性の問題
1 生命への畏敬 132
2 理性主義の見なおし 133 ▶p.30
3 言語論的転回 137 ▶p.31
4 科学観の転換 138 ▶p.32
東洋と西洋の思考 4 ことばをめぐる思考 — ことばとともにあること 140

第4編 国際社会に生きる日本人の自覚

第1章 日本の風土と外来思想の受容
第1節 日本の風土と伝統
1 日本の風土と人々の生活 142 ▶p.34
2 古代の人々の考え方 145
第2節 仏教の伝来と隆盛
1 仏教の移入 — 古代仏教の思想 149 ▶p.36
2 仏教の土着化 — 鎌倉仏教の思想 154 ▶p.38
第3節 儒教の日本化
1 儒教の伝来と朱子学 161
2 陽明学 163
3 古学 164
第4節 日本文化と国学
1 古典美の再発見 168
2 国学 170
第5節 近世庶民の思想
1 都市庶民の思想 172
2 農民の思想 173
第6節 西洋近代思想の受容
1 西洋文明との接触 174
2 啓蒙思想と民権論 176
3 キリスト教の受容 179
4 国家主義の高まりと社会主義 180
5 近代的自我の成立 183
6 近代日本哲学の成立 186 ▶p.40
7 近代日本の思想傾向への反省 188
第2章 現代の日本と日本人としての自覚
東洋と西洋の思考 5 時間をめぐる思考 — 流れと永遠 192

第5編 現代の諸課題と倫理

第1章 生命と倫理 194 ▶p.42
第2章 環境と倫理 199
第3章 現代の家族とその課題 204
第4章 地域社会の変容と共生 207
第5章 情報社会とその課題 210
第6章 グローバル化の時代と倫理 214
第7章 人類の福祉と国際平和 217
さくいん 220

は、本資料に掲載した教科書の項目とページを示しています。